

◆文部科学大臣賞◆

〈学校教育部門〉

「つながりと感動をありがとう—ブログを活用した鮭稚魚飼育観察学習—」

北海道斜里郡斜里町立峰浜小学校（北海道）

〒099-4122 北海道斜里郡斜里町字峰浜69

■実践事例報告の概要

本校では児童の学習成果をWEB上で発信しているが、一方的になりがちであった。そこで、双方向的なシステムであるブログを活用した学習を行い、閲覧者をより意識した文章の書き方、研究のまとめ方を子どもたちに考えさせ、体験的に学ばせる。さらに、コメント機能を活用した閲覧者との双方向の交流など、インターネットを通じた、人と人とのコミュニケーションの楽しさを知り、メディアを有効に活用できるようにさせる。

実践のねらい

本校では、8年前から峰浜自然愛護少年団と連携して、シロザケの発眼卵をふ化させ、稚魚を飼育し、放流する活動を行っている。また総合的な学習の時間を中心とした教科等における、児童自身の研究成果を2001年度からホームページ上で積極的に発信しているが、一方的な情報発信になりがちであることがわかってきた。

そこで、双方向的なシステムであるブログを活用した学習を行うことにした。ブログを活用することにより、閲覧者をより意識した文章の書き方、研究のまとめ方を、子どもたちに考えさせ、体験的に学ばせる。さらに、コメント機能を利用した閲覧者との積極的な双方向の交流など、人と人とのコミュニケーションの楽しさを知り、メディアを有効に活用できるようにさせることをねらいとした。

特徴・工夫・努力した点

(1)知・創造性・コミュニケーション力の育成について

①課題意識を持った、日々の観察

動物や植物などの生物を継続して観察する場合、毎日同じことを続けると惰性になりがちである。そのため、積算水温を毎日計測するなど、観察のポイントをしぼり、飼育観察に取り組ませた。

②班編製の工夫

全校児童数が20名という小規模校の特性を生かし、3～6年生までの中高学年の全児童で飼育観察を行った。上級生が下級生と一緒に取り組めるように、縦割りの5班に班分けを行った。

③閲覧者の誘導の工夫と不適切なコメントへの対応

峰浜小学校公式サイトトップページからリンクを設定した。さらに、コメント欄を自由に開放した。コメントが書き込まれると、ただちにメールで担当者に知らせが来るように設定し、不適切なコメント等に対応できるようにした。

(2)情報モラル育成の観点から

①閲覧者を意識した文章の記述

記事の下書き後、縦割りの班内でお互いに読み返すことにより、正しい記述がなされているか、見ている人が不快に思うような文章はないか確かめ合った。また、文字や写真だけで伝えることの難しさを学び、正確に文章を記述するように心がけさせた。

②情報リテラシーの観点から

パスワードの厳重な管理、ブログで発信する意味や意義などについて時間を取り指導を行った。

実践内容

(1)縦割りチームによる異学年集団の協働

平日は毎日、日替わりで観察に取り組んだ。春

休みとゴールデンウィークに、観察を続けたいという子どもたちのために、「さけちぎょクラブ」を結成し、地域保護者の協力も得て観察を行った。

(2)技術面の指導

パソコンの立ち上げと、シャットダウン、ブラウザからのブログ編集ページへのアクセス、写真のブログへの転送、ブログの投稿の仕方などを図式化したマニュアルを作成し、活用した。

(3)内容面の指導

不特定多数の人が閲覧することを予想しながら、文章の書き方や表現の仕方について考えさせ、様子や気持ちが伝わるような文章の書き方や、寄せられたコメントに対する返事の返し方について指導した。

(4)他校との交流

同じ活動をしている東京の小学校とブログ上で交流した。担当者間であらかじめ打ち合わせをした。

(5)ブログの閲覧者との交流

学校間交流の他にも、コメント欄を活用し、鮭稚魚の飼育に興味を持ってくれた方との交流を行った。

(6)記録として残す

サーバ上にしかデータが残らないので、テキストと写真のバックアップをとった。

(7)ふか場の見学と採卵体験

毎年発眼卵をいただいている、さけますふか場の方の協力で、鮭の捕獲、卵の採集、受精などを見学し、発眼卵につながる過程を学習した。

(8)積算水温のグラフをネット上で公開

WEB上のグラフサービスを利用し、毎日計測した積算水温をグラフ化した。

実践結果

(1)縦割りチームによる異学年集団の協働と休業日の更新

職員や地域保護者の協力と子どもたちのがんばりにより、5ヶ月間一日も欠かさずに観察記録をつけることができた。

(2)技術面の指導

毎日の観察を続けることにより、マニュアルを見なくても取り扱いができるようになった。

(3)内容面の指導

見ている人を意識した文章を書くことができた。

(4)他校との交流

富山県の高校、東京の小学校と交流することができた。特に、中学年が東京訪問の機会を与えられ、これをきっかけに、交流している小学校を実際に訪問し、直接顔を合わせてふれあうことができたのは大きな成果だった。

(5)学校や子どもたちと関わりのある、遠方の人などとの交流

最後の活動である放流式で、ブログに寄せられたコメントのいくつかを発表し、実際に飼育活動や放流に参加していない人までも、同じ気持ちになって、鮭稚魚を見送ることができた。12月から交流を行ってきた、山村留学予定児童も4月からは観察のメンバーに仲間入りし、スムーズに仲間に入ることができ、意欲的に観察を行った。

(6)記録として残す

カレンダー形式にして保存することにより、長期間にわたって撮影した記録写真を掲載し、鮭稚魚の成長の様子を実感することができた。

考察（今後の課題）

- ①ブログを活用し、生物の成長を写真と文章で記録し、広く公開することにより、双方向システムの特性を生かしたつながりと交流のある学習活動を展開することができた。
- ②子どもたちはブログの良さを知り、学びに生かしていこうとする気持ちを次の段階へとつなげ、異学年の少人数グループによる「みんなのブログ」へと継続している。
- ③生き物を飼育することの大変さを実感し、大切にすることを今まで以上に味わうことができた。さらに3月まで飼育観察を続けた6年生が、卒業後も4月以降の稚魚たちを気にかけて、飼育観察をがんばる後輩たちにコメントを寄せるといふ、つながりを持つことができたのは大きな成果であった。
- ④5ヶ月間毎日休まず観察を続けることにより、継続して物事に取り組むことの大切さを学ぶことができた。
- ⑤情報リテラシーの観点から、見ている人を意識した文章の書き方の指導をこれからも行いたい。
- ⑥地域保護者の方にも協力をいただき、情報発信のよさについて理解が深まったため、保護者が発信する「地域情報ブログ」の新設につながった。